

第56回 定時株主総会

平成26年10月29日（水）

市場：東証JASDAQ
証券コード：3441

貴金属表面処理加工分野の
リーディングカンパニー
株式会社 山王

株主のみなさまへお願い



会場内では、
スマートフォン・携帯電話の
電源をお切りいただくか、
マナーモードにしてください。

会場内での
「喫煙」、「撮影」、
「録音」は ご遠慮ください。



入場票のご説明

- ご出席番号票は、株主総会終了までお持ち下さい。
- ご発言の際は、ご出席番号票に記載の番号とお名前をお申し出ください。
- 再入場の際は、ご出席番号票が必要となります。ご出席番号票を受付にてご提示下さい。

開 会

議決権数

平成26年7月31日現在：発行済株式総数

5,000,000株

* 自己株式384,050株含む

本総会において議決権を有する株主数

1,634名

議決権数

46,150個



監査報告

常勤監査役

古屋 英樹

▶ 事業報告

1. 企業集団の現況



事業報告

1. 企業集団の現況

(1) 事業の経過およびその成果

経済の状況

世界：

- ▶ 米国：雇用情勢の改善などを背景に底堅く推移
個人消費が景気を下支え、景気回復感強まる
- ▶ 欧州： ドイツの輸出増・内需拡大等で回復傾向
- ▶ 新興国： 中国など、内需や輸出の伸び悩み等で
景気減速傾向続き、全体として弱含み
+

日本： 緩やかな景気回復の動き

- ▶ 企業の設備投資増加、消費税増税に伴う
駆け込み需要もあり、雇用・所得環境が改善

(1) 事業の経過およびその成果

当社グループの業界動向

電子工業界：製品価格は下落傾向だが
部品需要は回復の兆し

- ▶ 需要低迷が長期化していたデジタル家電市場
(パソコン等)
- ▶ 前期第3四半期以降の急激な生産調整により
減少した I T 機器市場
(スマートフォン・タブレット型端末等)

(1) 事業の経過およびその成果

当社グループの取組み

市場環境に即した収益確保へ

- ▶ 管理業務の大幅な見直し
- ▶ 適正人員による効率性の追求
- ▶ 組織構造の抜本的改革



業績の回復に取り組む

(1) 事業の経過およびその成果

売上高

7,334百万円
(前連結会計年度比 +4.8%)

営業利益

36百万円
(前連結会計年度：
営業損失 533百万円)

経常利益

42百万円
(前連結会計年度：
経常損失 492百万円)

当期純利益

29百万円
(前連結会計年度：
当期純損失 648百万円)

1. 企業集団の現況

3 ページ

- ② 設備投資の状況
- ③ 資金調達の状況

に関する各項目については

お手許の招集ご通知をご覧ください



▶ (4) 対応すべき課題

(4) 対処すべき課題

厳しい事業環境続く
部品需要に回復の兆しがみられる反面、低価格化
企業間競争の激化、顧客各社の内製化の進展

重点課題

成長軌道への回帰

+

収益力の強化

- ① 品質と生産性のさらなる改善の追求
- ② 売上拡大による既存事業の収益力強化
- ③ 海外拠点の収益体質強化
- ④ 新規事業の創出

(4) 対処すべき課題

① 品質と生産性の更なる改善の追求

品質重視の体制を、基本的な視点を含めて再検討

- ▶ 加工工程の改善
- ▶ 管理方法の革新



更なる品質向上と生産性の改善を追求

(4) 対処すべき課題

② 売上拡大による既存事業の収益力強化

「パソコン・複写機・スマートフォン・タブレット型端末」
部品需要は回復、売上拡大は見込めるが・・・

厳しさ増す
顧客の要求コストへ
の対応

+

モノづくりの抜本的見直し

電子機器の小型化・高性能化で
部品の加工仕様が大きく変化

(当社)

積極的な設備投資、製造コスト低減、顧客要求コスト対応



既存事業の更なる売上拡大による収益確保へ

(4) 対処すべき課題

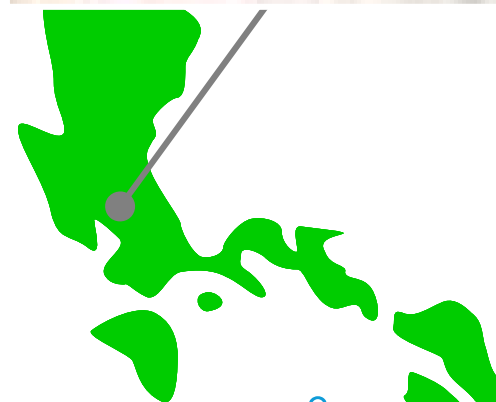
③ 海外拠点の収益体質強化 中国

- ・収益体質の強化
プレス・めっき一貫加工体制を更に強化
- ・製造コストの低減
安定したコスト管理維持へ

山王電子(中国・無錫)



SPMC (フィリピン)



中国・フィリピン

積極的な顧客開拓の為の施策

グループ最適受注へ連携体制を強化

(4) 対処すべき課題

④ 新規事業の創出

独立行政法人産業技術総合研究所
福島再生可能エネルギー研究所
「被災地企業のシーズ支援プログラム」
(平成26年4月採択)

1. めっき技術を用いた
水素透過膜支持体の開発

2. めっき技術を用いた
高い導電性を有した
アクリル樹脂粒子の性能評価

+

その他新規事業分野

- ▶ 表面処理関連技術
- ▶ 表面処理関連技術を応用した分野
- ▶ 当社を取巻く環境が求める分野

今後とも変わらぬ
ご支援を賜りますよう
お願い申し上げます

1. 企業集団の現況

4～8ページ

- (2) 財産及び損益の状況の推移
- (3) 重要な親会社及び子会社の状況
- (5) 主要な事業内容
- (6) 主要な営業所及び工場
- (7) 使用人の状況
- (8) 主要な借入先の状況
- (9) その他企業集団の現況に関する重要な事項

に関する各項目については

お手許の招集ご通知をご覧ください

2. 会社の現況

9～16ページ

- (1) 会社の株式に関する事項
- (2) 会社の新株予約権等に関する事項
- (3) 会社役員に関する事項
- (4) 会計監査人の状況
- (5) 業務の適正を確保するための体制

に関する各項目については

お手許の招集ご通知をご覧ください

▶ 第56期連結計算書類の 内容報告の件

貸借対照表（連結）①（資産・負債・純資産）

（単位：百万円）

科目	金額	科目	金額
流動資産	7,059	流動負債	2,640
固定資産	3,230	固定負債	1,095
有形固定資産	2,588	負債合計	3,736
無形固定資産	85	純資産合計	6,553
投資その他の資産	555		
資産合計	10,289	負債・純資産合計	10,289

（平成26年7月31日現在）

貸借対照表（連結）②（純資産）

（単位：百万円）

科目	金額
株主資本	6,182
資本金	962
資本剰余金	870
利益剰余金	4,474
自己株式	△125
その他の包括利益累計額	371
その他有価証券評価差額金	120
為替換算調整勘定	250
純資産合計	6,553

（平成26年7月31日現在）

損益計算書（連結）

（単位：百万円）

科目	金額
売上高	7,334
営業利益	36
経常利益	42
特別利益（固定資産売却益）	35
特別損失（減損損失等）	5
法人税等＋法人税等調整額	41
当期純利益	29

（平成25年8月1日から平成26年7月31日まで）

連結株主資本等変動計算書

19ページをご覧ください。

お手許の招集ご通知をご覧ください

第56期計算書類（単体）

20～22ページをご覧ください。

お手許の招集ご通知をご覧ください

▶ 足元の状況

前期の取り組み

生産体制

プレス・めっき一貫加工体制を推進
中国で体制整う→設備増強へ

事業領域

車載分野事業を本格的に拡大
試作品の製作増→取扱い品目の拡大
各メーカー向け出荷が本格化

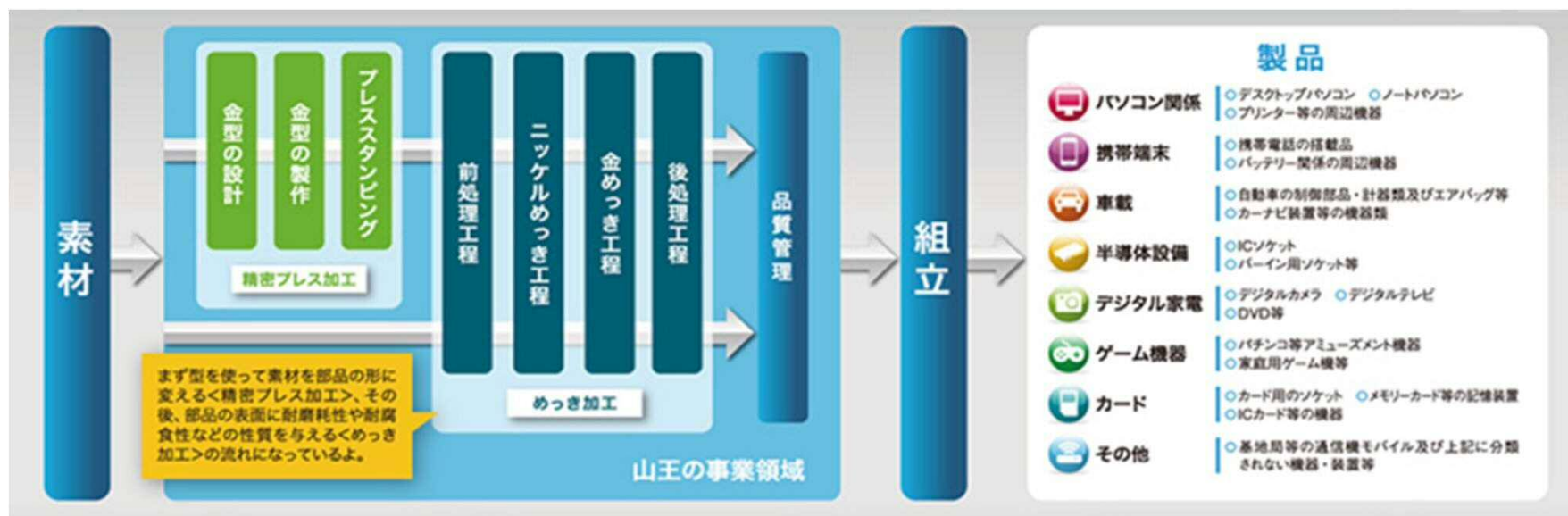
顧客開拓

海外現地メーカーと関係を強化
中国を中心に汎用スマホ向けを開拓

注力拠点中国で「プレス・めっき一貫加工」体制整う

▶ 下半期に専用ライン整備が完了、稼働率が上昇中

▶ 現地メーカーとの取引も開始、更なる設備増強へ



車載用部品供給がグローバルで本格化

- ▶ 各社要請受け、試作品製作増、取扱い品目増、生産本格化
- ▶ 全拠点（日・中・フィリピン）でライン改造・新設を決定

山王電子（中国）

（車載用ライン）

エアバック、表示パネル、カーナビ向けなど

山王（日本）

大型品、センサーなど



S P M C（フィリピン）

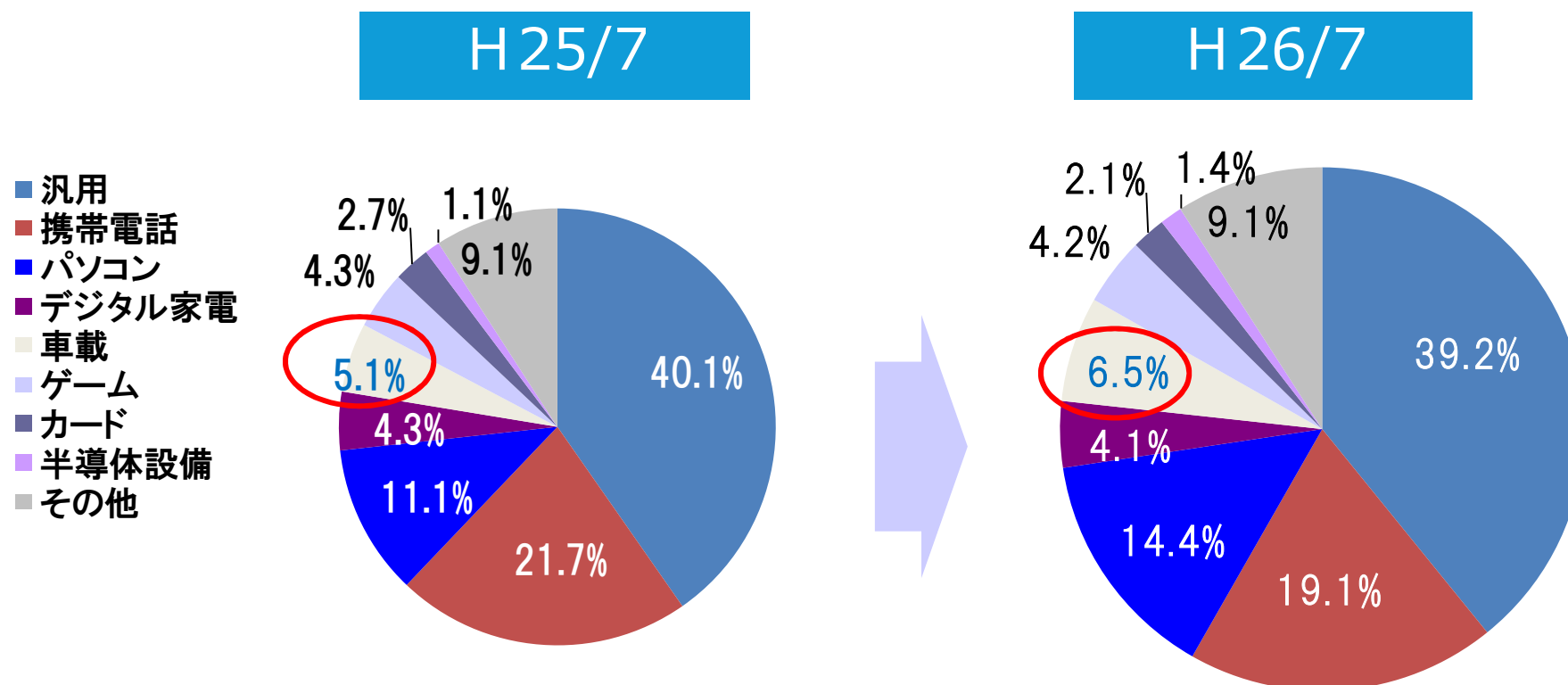
ドアミラー、
パワーウィンドウ、
カーナビ向けなど



用途別売上構成の推移（国内）

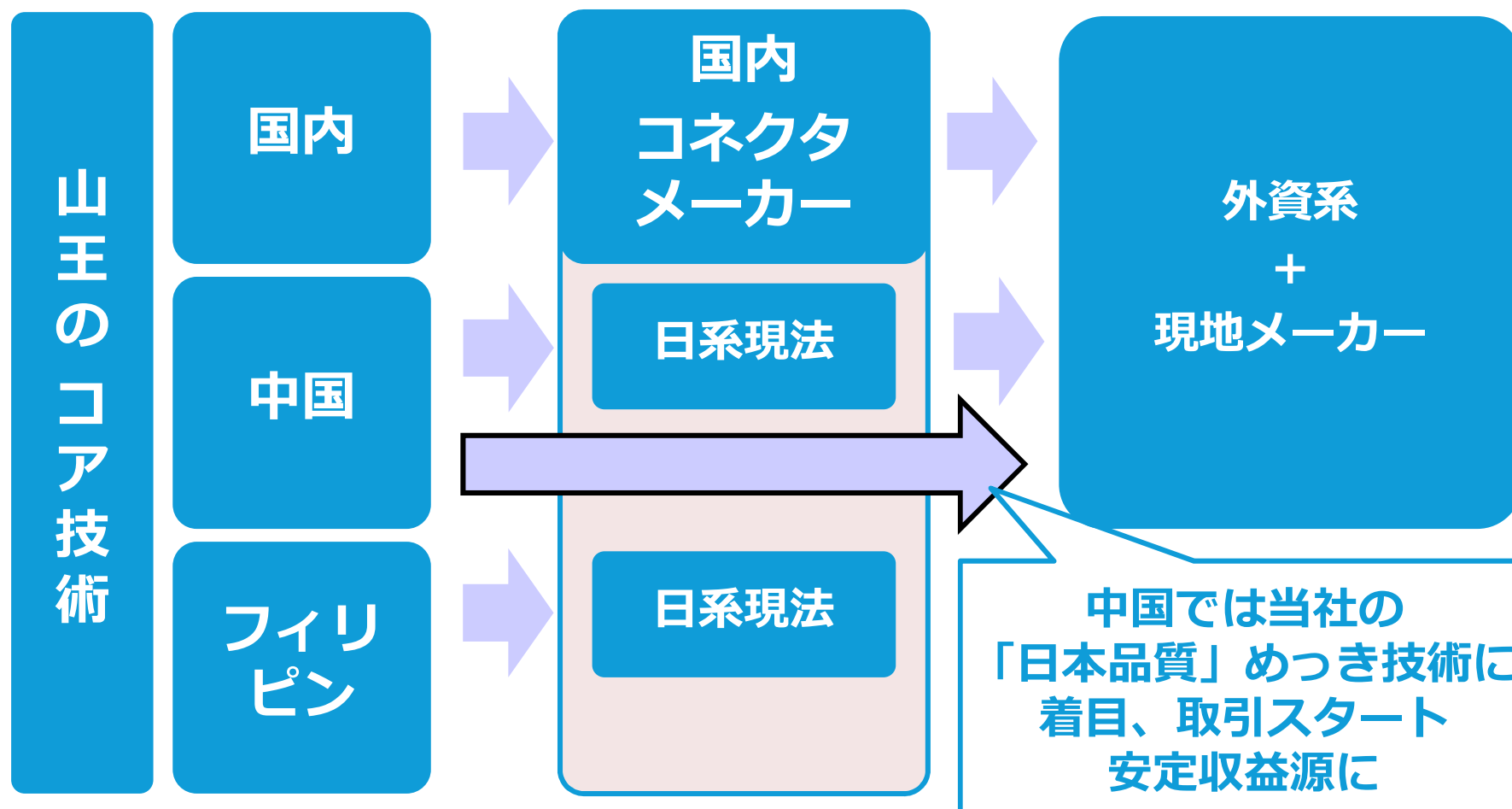
▶ 車載向け比率は前期比で上昇（5.1%→6.5%）

- ・ 携帯電話向けは約2割



海外現地メーカーとの取引も拡大

- ▶ 中国で現地スマホメーカーとの取引が活発化
- ▶ 当社の技術を現地の汎用品向けに提供



平成27年7月期業績予想

増収増益：売上高75億円、営業利益8500万円

▶ 売上高：積極受注で価格競争あるも増収へ

▶ 営業損益：増収効果と効率性改善で増益を想定
設備投資による償却負担増を見込む

(単位：百万円)

	H26/7・実績	H27/7・計画	前期比
売上高	7,334	7,500	+ 2.3%
営業利益	36	85	+ 132.0%
経常利益	42	90	+ 113.9%
当期純利益	29	50	+ 66.9%

▶ 事業戦略と今後の方向性

電子部品と連動してめっき需要は拡大

- ・ 旺盛な電子部品需要と連動、通信だけでなく車載分野までコネクタ・メーカーからの打診多い

通信関連

- ▶ スマホ・タブレット向け堅調
- ▶ 汎用化・低価格が進むが
コア部品のコネクタ需要は、
スマホ・タブレットと共に
順調に拡大
- ▶ 大手デバイスメーカーの
主役交代はあるが、
現地メーカー向けも成長

+

車載

- ▶ 自動車部品の電子化で
需要が拡大
- ▶ 自動車需要はグローバルで
旺盛、市場は拡大傾向
- ▶ 長期安定的取引が見込める

方針：事業拡大とその生産基盤整備に注力

積極的に受注活動を行い、事業を拡大する

設備稼働率・生産性向上を意識して
受注許容量を大幅にアップ



好転する事業環境

有力顧客との信頼関係

安定しためっき需要

大量受注に対応する基盤を整備・強化

めっき製品の主力は汎用品市場



ビジネス拡大へ汎用品の大量受注に対応するため設備更新・増強と工程効率化をすすめる

設備
更新・増強

- ・ 汎用品の大量安定供給に対応するラインの改造・機械設備の設置
- ・ 需要増に備えた車載ラインの増設

+

工程効率化

めっき生産工程の単純化・効率化
「シンプル・イズ・ベスト」

組織の強化

社内意識の改革

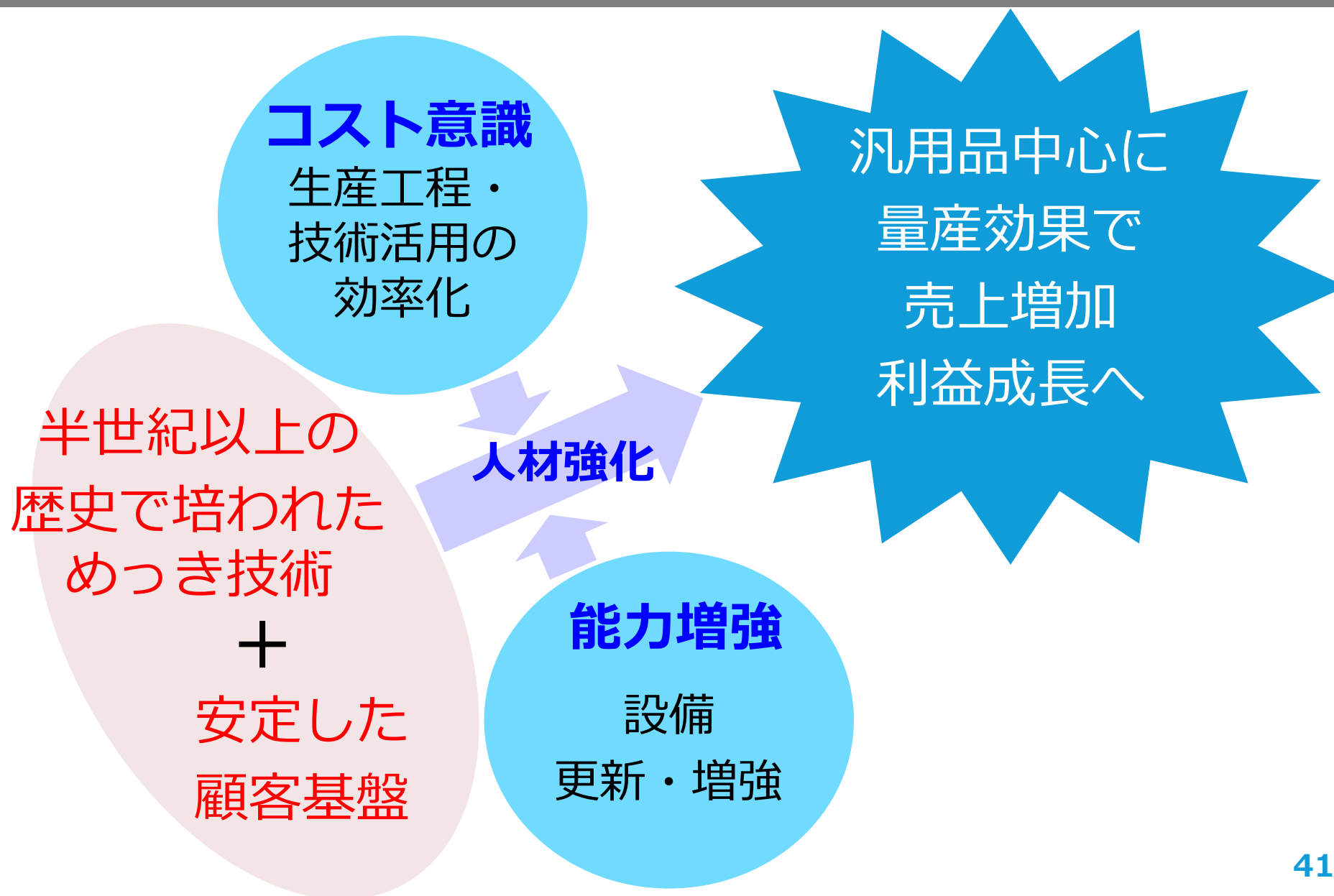
量産・事業拡大意識の強化

- ・「よいものをつくる会社」 =
「お客様が満足するものを早く沢山つくる会社」に
効率化の徹底
- ・モノづくりに対する強い想いを
「クオリティとスピード重視」でお客様満足度向上に繋げる

外部資源の積極活用（人材・パートナー・技術）

- ・改革へ外部から新たな視点・視野を導入
- ・生産工程の全面見直し、効率化を推進

成長戦略：生産体制強化による事業拡大



新規事業へ（独）産総研と共同研究開始

当社めっき技術を活用した研究開発2件が採択（平成26年4月）

**独立行政法人産業技術総合研究所
福島再生可能エネルギー研究所
「被災地企業のシーズ支援プログラム」**

当社技術者が、早期実用化へ向けて、
福島再生可能エネルギー研究所と共同で研究開発を開始



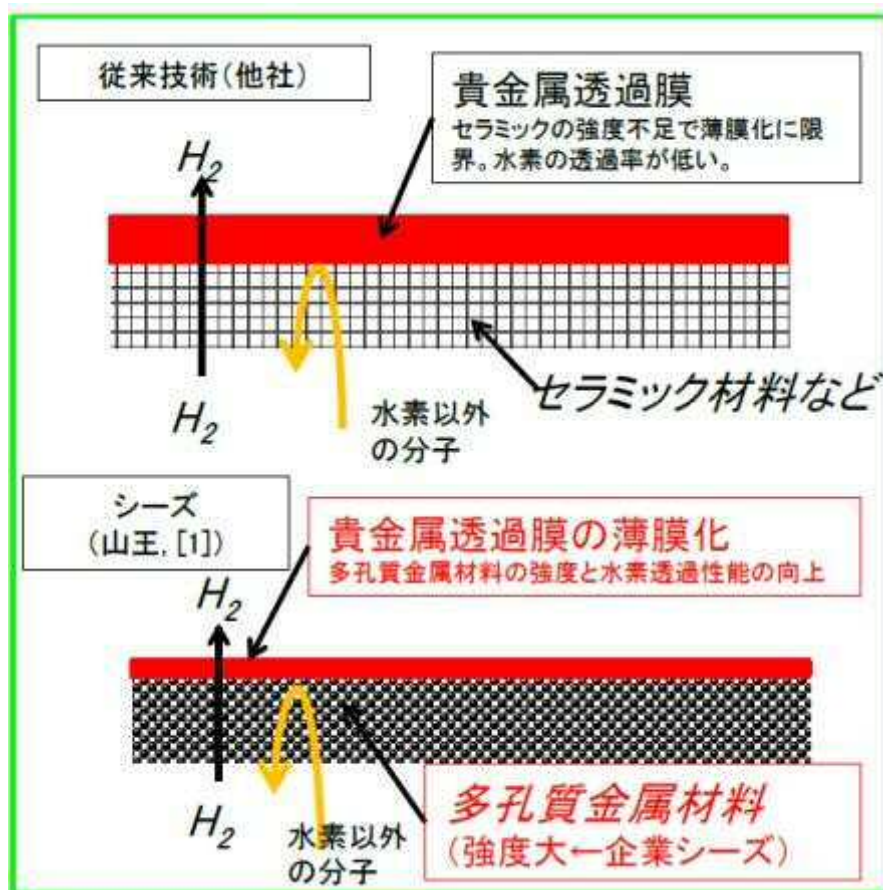
+



(独) 産総研との共同研究

1. めっき技術を用いた 水素透過膜支持体の開発

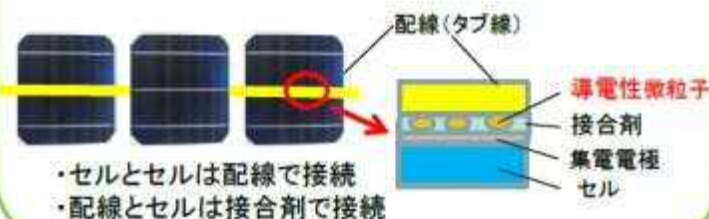
東京工業大 原子炉研との共同研究



2. めっき技術を用いた 高い導電性を有した アクリル樹脂粒子の性能評価

株式会社山王

- ・めっき技術を用いた導電性アクリル樹脂粒子の開発
- ・配線とセルとを接続する接合剤へ添加。



導電性微粒子の
開発

配線の評価

産総研

- ・導電性微粒子を用いた配線接合材を使用して、配線材とセルとの接続・評価を行う。



配線圧着装置
(導電性フィルム用)

出典： 独立行政法人産業技術総合研究所資料

中長期成長へ向けて

売上目標

- ・ まず80億円
- ・ 3～5年以内に100億円を突破へ

収益体質

- ・ 黒字体質を維持できる収益構造へ
(設備更新による固定費率低下、
材料使用効率化による原価安定化等)

主力業務

- ・ 「スマホ・タブレット用コネクタ向け」と並んで、
「車載向け」を主力・安定収益源へ
- ・ 新規研究開発分野（（独）産総研と共同）の
早期事業化にも期待

営業展開

- ・ 日本・中国・フィリピン三大拠点の連携強化で
アジア市場を確実に捕捉
(日系顧客だけでなく現地顧客も開拓)



決議事項

第1号議案

取締役1名選任の件（新任）

てるい
照井

ひでき
英樹

＊ 経営体制の強化を図る

第2号議案

役員退職慰労金制度廃止に伴う打切り支給の件

1 こうやま ふみなり
 甲山 文成
 当社代表取締役社長（現任）

4 みうら ひさし
 三浦 尚
 当社取締役（現任）

2 まえだ つぐとし
 前田 次利
 当社取締役（現任）

5 ふるや ひでき
 古屋 英樹
 当社常勤監査役（現任）

3 すずき けいじ
 鈴木 啓治
 当社取締役（現任）



▶ ご発言・ご質問

お願い

- ご出席番号票とお名前をお知らせください。
- なるべく多くの株主様から
ご質問をいただきたく、関連質問も含めて
お一人様3問までのご質問で
お願い致します。



議案採決

決議事項議案

第1号議案

取締役1名選任の件

第2号議案

役員退職慰労金制度廃止に伴う
打切り支給の件

閉 会

新任取締役のご紹介

てるい
照井

ひでき
英樹

第56回 定時株主総会

ありがとうございました。

これからも株式会社山王を引き続きご支援賜ります
ようお願い申し上げます。

市場：東証JASDAQ
証券コード：3441

貴金属表面処理加工分野の
リーディングカンパニー

株式会社 山王